

## 大会参加報告

## AFC U-14 Girls' Regional Championship 2016 - East 参加報告

「AFC U-14 Girls' Regional Championship 2016 -East に参加して」  
 ----- サッカー2級審判員：大谷 美瑛 -----

この度、5月12日から22日にかけて中国の北京で開催されました、AFC U-14 Girls' Regional Championship 2016 -East に審判員として参加させていただきました。10日間の現地での活動をご報告させていただきます。

今大会に日本からは私を含めた3名が審判員として参加しました。そして、中国と韓国から同じく3名ずつ、北朝鮮から2名、香港と台湾から1名ずつの計13名の審判員が参加しました。インストラクターで深野悦子氏（日本）、Keen Airlie Katherine 氏（オーストラリア）にご指導いただきました。

## ◇Referee Preparatory Course/Fitness Test 5月12日～16日

日程	内容
1日目	9:00 Opening Ceremony
	9:45 Introduction Administration AFC Project Future
	10:30 Duties of Referee & Assistant Referee
	11:30 Positioning and Movement
	14:00 Video Test1, LOTG Test1
	15:30 Practical Training (Positioning & Movement)
2日目	9:00 Fouls & Misconduct (Severity of Fouls & Sanctions)
	11:30 Qualities of a Referee (Discussion Groups)
	14:00 Review of Video Test1 & LOGT Test1
	15:15 Fitness Test protocol
	16:00 Fitness Test Preparation Light Training
3日目	7:00 Fitness Test 40m走×6本150m (35s)+50m(45s)×20本
	Recovery
	14:00 Offside Interpretation
	15:15 AFC Match Incident Analysis



4日目	9:00 Festival or Championship Guidelines
	10:15 Video Test2, LOTG Test2
	11:30 Match Management
	14:00 Players Equipment, Penalty Kick
	15:30 Practical Training (Fouls Recognition)

5日目	9:00 Video Match Control
	10:15 Offside Test (LOTG On Screen Test)
	11:15 Review of Video Test2, LOTG Test2 & Offside Test
	14:00 Teamwork and Cooperation
	15:15 LOTG Interactive English Proficiency Test
	16:00 Closing of the Course



### 《研修内容》

Refereeにとって大切なことー 競技規則の理解、ゲームコントロール、正しい判定、フィットネス、パーソナリティー、信頼、勇気など、ディスカッションを行いなぜ必要か、どんな場面で必要なかを考えた。

良いポジショニング=主審はボールと副審が視野に入る角度で、プレーに近い。

試合展開を読むためには、選手の技術、チーム戦術、目だけでなく耳も使い回りの状況を確認する。

ファウルの判定をビデオ映像を繰り返し見て、Consideration point に当てはめながら正しい判定を導いた。

プラクティカルでは、PKとFKの見極め、ゴールキーパーのハンドリングやゴールとノーゴールの見極め、オフサイドのトレーニングを行った。主審のステップワークのトレーニングでは、スプリント、バックステップ、サイドステップ、クロスステップ、ターンを予想されるゲーム展開にあわせ使い、その中で副審のフラッグアップを確認するというものがあった。フィールド全体を使用するので試合をイメージしやすかった。

### \*ドクターの An Nan 氏からの体調管理についての講義

食 事：運動2～4時間前 ご飯やパスタ・肉やサラダといった食事  
運動 30～60 分前 スポーツドリンク・果物・シリアルバーなど

水分補給：試合の1時間前には500ml  
試合前～試合後で主審は2ℓ が好ましい  
少量の水分を頻繁に摂取する



### ◇Competition

5月17日～19日 Group Stage

予選リーグ 1日目	14:00 kick off 中国(CHN) vs韓国(KOR)	
	主審：Chen Mei-Yi (台湾)	副審1：Urara Horikawa (日本)
	副審2：Mie Otani (日本)	第4の審判員：Mao Mikuni (日本)

緊張があったが、普段通り集中しようと試合に臨んだ。大会の初戦ということもあり白熱した試合となった。ペナルティーエリア付近の事象や、クロスバーから地面にはね返るシュートといった際どい判定を見極めることができた。クロスステップの使用を減らしフィールドに正対したサイドステップとダッシュの早い切り替えをするようにとアドバイスをいただいた。

予選リーグ 2日目	14:00 kick off 香港(HNK) vs 台湾(TPE)	
	主審 : Urara Horikawa (日本)	副審 1 : Mie Otani (日本)
	副審 2 : Rim Myong (北朝鮮)	第 4 の審判員 : Hyon UnMi (北朝鮮)
	17:00 kick off 北マリアナ諸島(NMI) vs 中国(CHN)	
	主審 : Jee MiJung (韓国)	副審 1 : Kim DaeOg (韓国)
	副審 2 : Lee YiSeul (韓国)	第 4 の審判員 : Mie Otani (日本)

#### 香港(HNK) vs 台湾(TPE)

前日の反省を踏まえ、ステップワークを意識した。アセッサーの方から改善できていると評価していただいた。ファウルスローのサポートや交代のシグナルなど、審判団での協力がとても良くできた。

#### 北マリアナ諸島(NMI) vs 中国(CHN)

交代、負傷者、ベンチコントロールなど複数の事が同時に起こり大変な場面もあった。そのときの優先順位を間違えてはならないとご指導いただいた。また、主審がオフサイドのフラッグアップに気づかずに得点を認めプレーが再開されそうなときがあり、全員が主審を呼んだ。結果、主審に気づかせることができ試合を正しく進めることができた。

予選リーグ 3日目	14:00 kick off 北朝鮮(DPR) vs 香港(HKG)	
	主審 : Mie Otani (日本)	副審 1 : Mao Mikuni (日本)
	副審 2 : Urara Horikawa (日本)	第 4 の審判員 : Chen Mei-Yi (台湾)

チーム戦術を考えながらポジショニングをとることができた。出血者が出たとき第 4 の審判員が交代の対応をしていた。そこで、チーム役員へ復帰方法について簡潔に話すことができた。ファウルの判定は正しいが、選手やチームを信頼させるために笛の強さが必要であると指摘をいただいた。

20日	rest	
21日	Semi Finals 北朝鮮 vs 韓国 ・ 日本 vs 台湾	
22日	14:00 kick off 台湾(TPE) vs 韓国(KOR)	
	主審 : Mao Mikuni (日本)	副審 1 : Mie Otani (日本)
	副審 2 : Rim Myong (北朝鮮)	第 4 の審判員 : Lam Pui Tan (香港)
	Final 日本 vs 北朝鮮	



### 3位決定戦 台湾(TPE) vs 韓国(KOR)

オフサイドの見極めが難しいものもあったが、集中して判断することができた。初戦で課題となったステップワークもさらに良くなったと評価していただいた。

また、シグナルや表情でさらに信頼を与えられるようになることを新たな課題に挙げていただいた。

#### ◇全体を終えて…

今大会の参加前に私は様々なことを考えました。このお話をいただいたのが2級に昇級して間もなくでした。本格的に審判活動を始めてから一年で、大きな大会の経験も少なく、参加してもついていけるだろうかと不安がありました。

しかし、このようなチャンスが再びあるとは限らないと考えると、できないことや、分からないことを見つけに行く機会になると思って挑戦しようと決意しました。私にとって、今大会が初めての国際試合でした。大会が始まるまでは緊張もありましたが、楽しくサッカーと向き合うことができました。

研修は全て英語で行われました。私は、言葉がわからなければコミュニケーションが難しいと思っていました。試合中、私は、伝えたい事がうまく伝えられず悔しい思いをしました。その日の夜、インストラクターの深野氏に「実際、試合中に他の国の審判員と話すことって少ないよ。」と言われました。その言葉で、自分がバーバルコミュニケーションにこだわっていることに気がきました。語学力が重要であることは今回とても感じた事でした。

しかし、試合のことを考えると、選手への注意やベンチコントロールなど簡潔に分かりやすく伝えなければならないことがたくさんあります。そこで、ノンバーバルコミュニケーションを取り入れなければならないと思いました。講義の中でも、審判員が表情を使い分けてマンマネージメントをしている映像を見ました。ノンバーバルコミュニケーションの学習材料は様々なところにあると思います。それらを自分で見つけ向上につなげていきたいと思います。



(大会中) 全員で北京市街へショッピング

10日間で頭に残っていることやノートに書いていることを振り返ると、ある言葉が何度も出てきていた気がします。それは CONFIDENCE (信頼) と TEAM WORK (チームワーク) です。この言葉は、研修中も試合後の反省でもでてきました。信頼とは言動や態度、表情といった部分から周りが評価してくれるもの。以前、信頼について考える機会があったのですぐにこのようなイメージが沸いてきました。

しかし、このイメージは主審のことばかりでした。副審をした際に”信頼“を求められ、ハッとした瞬間をよく覚えています。一人の審判員として信頼されるためにはどうすべきか考えることが多かったですが、審判団としての見られ方を意識していかなければならないと感じました。チームワークは、今回集まった審判員全員が感じていることだと思います。

研修中からお互いを励ましあって協力したことが度々ありました。その力を試合に生かし、スムーズに試合を進めることができました。

また、宿舎では同じ国籍同士の部屋割りが多く、韓国の審判員と相部屋になりました。初めは、何を話したらよいかも分からず会話も少なかったですが、日を重ねるごとに仲良くなって行きました。その日の講義の復習をしたり、一緒に英語の勉強をしたり、お互いの国でのことや将来のことを話したりしました。もちろん、他の国の審判員ともたくさんの交流がありました。やはり、寝食を共にするとその人の習慣や性格を知る場面が多々あり、彼女と相部屋になったからこそ経験できたのだらうと思います。大会最終日前夜、私たちは成長して国際審判員になって再会しましょうと全員で話しました。いつか、この約束を果たせるように向上心を持って自分のレフェリングと語学力を高めたいと思いました。

私は、今大会・研修を通して審判活動への意欲が増しました。今までは、審判員として経験を積んで上にいきたいというような強い意志はありませんでした。私が選手のころ、サッカーと向き合うことで、人としての成長が出来たと思っています。

今回、多くの刺激を受け、審判員としてサッカーに向き合うことでさらに自分を高めたいと思いました。

最後になりましたが、充実した施設のもと素晴らしい経験をする事が出来ました。今大会・研修にご協力いただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

今回の経験を自身のステップアップに繋げていけるよう審判活動に邁進していきたいと思っています。

今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。

